

事務事業名 小学校施設整備事業		所属部 教育委員会	所属課 教育総務課
総合計画体系	政策名 (IV)ふるさとを学び育つまち<教育・文化>	所属G 施設維持G	課長名 加納忠夫
	施策名 (27)学校教育の充実	担当者名 高島章弘	電話番号 0854-40-1071 (内線) 3649
	目的対象 小学校の児童・中学校の生徒	予算科目 会計 款 大事業 大事業 0 1 5 0 0 4 項 目 中事業 中事業 1 0 0 5 0 1	小学校施設整備事業
	基本事業名 (084)学校の施設・設備の充実		小学校施設整備事業
目的対象 児童・生徒	意図 充実した教育施設・設備で学ぶ。		

1 現状把握【DO】

(1)事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (16年度～)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
学校施設の修繕事業(校舎、屋体等施設、敷地・法面、遊具の維持管理) 毎年度、当初予算要求時に学校から要求された修繕箇所及び保守点検等による指摘修繕事項、また、前年度までの未修繕箇所について優先順位を決め、これを実施する。緊急を要する修繕が生じた場合には、これにも対応する。

(2)事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動					
	26年度実績(26年度に行った主な活動) ・老朽化に伴う施設修繕(電気設備・漏水・消防施設等) ・備品等の耐震対策(転倒防止等の対策) ・体育館の天井材落下防止対策(天井材撤去改修工事)	27年度計画(27年度に計画する主な活動) 老朽化に伴う施設修繕(電気設備・漏水・消防施設等)				
	② 活動指標	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
	ア 小学校修繕工事箇所数	箇所	83	141	177	90
	イ					
	ウ					
	エ					

(3)事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
	市内の小学校	ア 市内小学校数	校	19	18	16	16
		イ					
		ウ					
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)	
施設使用上の利便性を確保する。	ア 修繕実施箇所数と要望箇所数の比率	%	60.0	35.0	57.3	50.3	
	イ						
	ウ						

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (26年度決算)	② コストの推移	単位	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(計画)	
[小学校施設整備事業] 備品等の耐震・転倒防止対策の消耗品5,803千円 施設の修繕費12,416千円 漏水調査、倒木処分等の手数料56千円 施設改修の工事請負費33,675千円 計51,950千円(主な工事:体育館天井撤去改修工事:26,648千円)	財源内訳	国庫支出金	千円			8,543	
		県支出金	千円		5,800		
		地方債	千円		16,600	17,800	
		その他	千円				1,065
		一般財源	千円	14,675	25,704	32,972	21,907
	事業費計(A)	千円	14,675	42,304	65,115	22,972	
[小学校施設小規模修繕事業] 小規模修繕事業13,165千円	人件費	正規職員従事人数	人	1	2	1	
		延べ業務時間	時間	960	1,000	1,000	
		人件費計(B)	千円	3,761	3,893	3,888	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	18,436	46,197	69,003		

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
合併により小学校が21校となり(現在は16校)、修繕件数、所要額が多くなり、修繕要望に全て応えることができない。	修繕要望に優先順位をつけ、緊急性の高いものから対応する。	学校から当初予算要求時に修繕要望が提出される。

事務事業名	小学校施設整備事業	所属部	教育委員会	所属課	教育総務課
-------	-----------	-----	-------	-----	-------

## 2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒	
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して達成する目的か？		
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？ 意図を限定・拡充する必要はないか？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒	
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？		
C 効率性	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	施設の老朽化に伴い、修繕要望額は増えていて、予算内で対応できない状況である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない		
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有		
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒ (具体的な手段や類似事業名)	施設の維持管理については他部局でも行っているが、学校施設を委員会部局が管理している限り、統廃合ができない。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない		
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	壁クロスの張り替えや壁の塗り替えなど軽微な修繕については校務技師会で対応しているが、学校要望に対し半分も応えられない状況で削減することはできない。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
D 公平性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	修繕の設計については業者に年間を通して委託契約をしている。また、軽微な修繕については夏休みを中心に校務技師会で対応している状況で削減することはできない。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	子どもたちが安心安全な教育環境で生活できるよう、施設の修繕を行っていることから公平・公正である。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である		
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
			合併と統合により、小学校が21校となり(現在は18校)、修繕件数、所要額が多くなり、修繕要望に全て応えることができない。子どもの安全面を前提に優先順位を決め、修繕するが、雨漏りや消防施設の老朽化による修繕など緊急性を要するものも中途に発生するため、要求ベースに応えることができない。

## 3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		② 改革・改善による期待成果																			
<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 目的再設定	<input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携																		
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善)	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善)	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)																		
施設の老朽化に伴い修繕要望額は年々増加しており、予算内ではその一部しか対応できない状況である。																					
		<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持	●	×	低下	×	×
	コスト																				
	削減	維持	増加																		
成果	向上																				
	維持	●	×																		
	低下	×	×																		
<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																					